



e-La Voz
「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
メールマガジン
(第7号)

2003年4月28日発行

「アンデスの声」39周年記念感謝コンサート

39の数字は「サン キュー」と読みます。そこで放送39周年の節目に、これまでわたくしたちのために、祈り、捧げ、支えてくださった方々への感謝 (Thank You) とこれからの歩みを記念するため、HCJBホールを会場に記念感謝コンサートの夕べをひらきました。

会場では、在留邦人家族をはじめ、HCJBスタッフ家族も交じって、まず軽食をいただきながら、フジTVの「ドキュメント日本人：国際篇」エカドルにアンデスの声を見た! (1976年制作)のビデオで26年前をふりかえりました。着任間もない平松弘行大使も夫人同伴で出席してくださり、コンサート前に次のようなご挨拶をくださいました。



「わたしとアンデスの声との出会いは中米のエルサルバドル共和国でした。1970年代はじめに赴任した当時、わたしが短波でNHKニュースをきこうとしていたその時に、はっきりした日本語で入ってくる局があったのです。それがアンデスの声でした。外国に出ていた日本人の数は今にくらべて非常にすくなく、そういう時に短波ラジオで日本語放送がきけるということ自体、われわれにとって大きな励みになったと記憶しています。おそらく当時、中南米に住んでおられた移住者の方々、商社、メーカーの駐在員の方々などがアンデスの声をきかれて、同じような励ましの気持ちをいだかれたことだと思います。ほんとうに39年間の長い歳月ご苦労さまでした。これからも続けてご活躍ください。」

コンサートは「アンデスのセレナーデ」の調べからはじめました。おなじみのホルヘ&道夫のコンビでラテンを代表する楽器チャランゴとギターの軽やかな響き。それに特別ゲストのサンドロ・マリアさんのアンデス高原をふきすさぶ風をおもわすパンフルートの演奏が加わり「コンドルは飛んでいく」が流れると、会場からは聴衆の盛大な拍手がわきおこりました。滅ぼされたインカ民族の子孫たちに苦難からたちあがる勇気と希望を与えたこの曲は、今も世界のおおくの人たちのこころに感動を与えていたのです。<飛べ、飛べ、コンドル、無限の空へ、太陽にむかって、おおきくはばたけ！>

四季の変化のうつくしい日本では、「自然の流れ」を大事にします。その流れのなかでわたくしたちもエカドルの岸辺に流れついたといえるのかもしれません。異郷に住む日本人の気持ちをよくあらわした島崎藤村作詞・大中寅二作曲「やしの実」をみんなでうたいました。国立管弦楽団の主席フルート奏者エウヘニア・アイサガさんが着物姿で登場。日本のメロディにさわやかな音色をそえてくださいました。

ここで「アンデスの声」にいつも家族全員で出演してもらっている内田ファミリーにお礼をのべると、それに答えて次女の作ちゃんが、一家を代表してあいさつに立ちました。

「今日は、放送とは別の素顔を紹介したいとおもいます。それは、アンデス日曜学校のことです。そこからは何人の生徒たちが祈りをシャワーのように浴びて育っていました。わたしも祈ってもらえる幸せと、祈ってあげられる喜びを、そこで教わりました。」

同じ日曜学校で育ち現在は大学生の田辺裕一郎君からもちょうどメールがとどいたので、作ちゃんに読んでもらいました。

「時代の流れに負けず、新しいことにチャレンジする尾崎先生には頭が下がります。デジタルには感情がありません。ストレートで冷たさすら感じる無機質なこの技術にいのちを吹きこんでください。ミネアポリスの寒い、寒い地で温かい番組をこころ待ちしています。」

するとラファエル君がさっさと前にすすみでてきました。エカドル人の好青年ラファエル君は高校、大学

生時代にわたくしたちの片腕として7年間働いてくれました。

「ボクのこころに残っているのは、アンデスの声が南米に住んでいる日本語に飢えていた人たちを励ました大切な放送だったということです。いっしょに仕事をさせてもらってナマでそのことを感じ、ほんとうにすばらしい働きだとおもいました。」

コンサート第二部では、自暴自棄の人生から立ち直って音楽宣教師になったタイ・ステイクさんの自作自演のアメリカン・ゴスペルを2曲、道夫とアン・マリー夫妻のインターナショナル・ブレイズから4曲。そして平和をテーマに話したあと、HCBアンサンブルによる<アッシジの聖フランシスコの祈り 平和のためにわれを用いたまえ>の合唱でコンサートはフィナーレ。最後にカート・コール国際放送部長が次のように祈りました。

「キトからの日本語放送を通じて、長い間働きができたことを感謝します。と同時にまだその使命が終わっていないことも感謝します。ですから、どうかこれからも主に仕える尾崎夫妻をその目的達成のために祝福して、お用いください。」

在留邦人の有志からとどいた豪華な花束にかこまれた会場で、大型の祝賀ケーキを手にお互いに歓談しながら、有意義で楽しかった39周年記念感謝コンサートのタベはその幕を閉じたのです。参加者したのも、出席したものも感謝にみたされたひとときでした。

なお、この実況再録放送は5月1日に行われます。

**放送日：5月1日(木)日本時間20:30～21:30 (1130-1230 UTC)
周波数：15.450MHz (19mb)**

この番組のために発行される特別ベリカードは、キトから発行される日本語放送の最後で最後のベリカードになります。ぜひおききください。受信レポートをお待ちしています。

在主 尾崎一夫 久子



【お知らせ】

「『アンデスの声』39周年記念感謝コンサート」の模様をオンライン・アルバムにまとめました。リンク先は、

<http://album.nikon-image.com/nk/NAlbumPage.asp?un=24172&key=129237&m=0>

です。写真のプリントをご希望の方は、実費ご負担にてご注文いただけます。オンライン・アルバムにログイン後、画面右上にある[プリント]ボタンをクリックし、表示される手順に従って必要事項をご入力の上、お申し込みください。なお、プリントのお届け先は日本国内に限定されておりますことを、予めご了承ください。

ゲストブックも用意しておりますので、画面右上にある[ゲストブック]ボタンを押して、ご感想などをご記帳ください。

このオンライン・アルバムのことをお友達に案内するには、画面右上にある[友達に紹介]ボタンをご利用ください。

- このオンライン・アルバムは、2003年7月31日までご利用いただけます。

このメールマガジンは、HCB『アンデスの声』日本語部の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。

このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCB『アンデスの声』日本語部](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録は、下の該当ボタンを選択し、必要事項をご記入の上、[この内容で送信する]ボタンをクリックして、手続きをお願いします。なお、

Netscape 6.2以降をお使いの場合、このメールマガジンに埋め込まれているご登録手続きの機能はご利用いただけません。ご面倒ですが、[HCJB『アンデスの声』日本語部](#)まで別途メールにてお知らせください。

配信の停止 (**重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。**)

配信変更先のメールアドレス
(**重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。**)

新規登録するメールアドレス

お送りいただいた内容はメールリスト・サーバにより自動的に処理しますので、余分な内容は一切入れないでください。
このメールマガジンはコンテンツが大きいため、携帯電話への配信はできません。



Copyright © 2003 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>
Eメール: kozaki@hcjb.org.ec

郵便の宛先: HCJB, Casilla 17-17-691, Quito, ECUADOR